

GSI 指導案 【山崎・原田・迫・高柳(全員国語)】

1 タイトル ロジック I ～パラグラフの基礎的なリテラシー～

実施日 6/29 土 2 時間 7/6 土 2 時間

2 概要

段落(パラグラフ)を意識した論理的な文章を書く(または読む)言語技術を修得する中で、文章を構造として把握する「基礎的なリテラシー」を身に付ける。

1 日目

- (1) 論理、段落(パラグラフ)とは何かを理解する。
- (2) 文章構成(コンポジション)と段落の役割に関する基礎論を理解する。
- (3) 序論・結論のある文章の「本論」を記述する。(意見文の基礎訓練 I) 250 字程度
- (4) 取材と構成、記述という言語技術の基礎論を理解する。

2 日目

- (5) 段落を意識して、取材・構成・記述する。(意見文の基礎訓練 II) 400 字以内
※日付の相違する新聞一日分を各自配布して取材させる。
- (6) 段落構成を意識した相互評価を 2 回行う。
- (7) 相互評価によって、自分の意見文の段落構成を見直し、清書する。

3 指導目標(どういう力またはリテラシーをつけさせるのか)

段落(パラグラフ)を意識した論理的な文章を書く(または読む)言語技術を修得する中で文章を構造(コンポジション)として把握する「基礎的なリテラシー」を身に付ける。

- ① コンポジションの基礎論を理解する。特に段落の役割について理解を深める。
- ② 取材と構成の方法を理解し、段落や意識した意見文を書く技術を身に付ける。
- ③ 文章の構造(段落の役割)を意識した読みの技術を身に付け、「論理性がある」とはどういうことかを理解する。

4 探究的な学習活動

- ① 論理の中核となる本論を実作し・相互発表によって段落の意味を理解する。
- ② 新聞記事の中から自ら興味ある論点を見つけて、取材し、構成表を考え、意見文を作成する。
- ③ 意見文を、段落の観点で相互評価及び自己評価し、推敲して、論理的な考え方、文章構成の方法を身に付ける。

5 学習材の概要(どういう学習材で授業を展開するのか)

- ① 文や文章、記述、そして段落の役割に関する基礎をまとめた自作教材。
- ② 序論と結論だけがあり、本論を自分で埋める自作教材。
- ③ 新聞記事と取材プリント、作文用紙。

6 指導計画

	学習の流れ・目標	学習活動・指導上の留意点	評価の観点・方法等
1 日目	①ロジックを学ぶ意味を理解する。 ②三段落構成の段落について理解する。特に本論の役割と構造を具体的に理解する。 ③本論を実作して、相互発表して、段落意識を	①表記、文、段落、文章に関する基本的な考え方を説明する。 ②実際の生徒の意見文を使って、段落の役割と本論の構造について説明する。 ③序論・結論がある文章の本論部分を作成する。発表して、相互	※序論・本論・結論の役割を理解できているか。 机間巡視 ※本論が、適切な具体と適切な考察で成り立っているか。意見文

	明確にする。	評価する。	
2 日 目	① 段落構成について復習する。 ②取材の方法について理解する。 ③取材が、意見文の構成表になると理解する。 ④役割ある段落作りが、論理的な文章となることを理解する。 ⑤論理的な文章を創れるようになる。	① 前時の作品で段落構成のしっかりしたものを発表する。 ②新聞の中から、注目する記事を選定する。時間設定。 ③②を取材して、意見文を書く。 ④取材内容から序論・本論・結論のある文章を作成する。タイトルをつける。 ⑤相互評価して、論理的な文章作成の基礎を身に付ける。	②選定の手順が理解できたか。 机間巡視 ④段落構成がしっかりとしているか。 意見文 ⑤評価プリントによる。

7 評価規準

- (1) 段落構成の技能等について正確に理解することができたか。
- (2) 技能等を操作して、論理的な意見文の作成方法を身につけることができたか。
- (3) 学んだ技能等を活用して、課題研究の論文作成等に役立てる見通しを持つとともに、学んだ技能等は大学や社会でも役立つことが実感できたか。